

七友会だより

題字 大畑 莊一氏
昭和62年3月20日発行
岩手大学
人文社会科学部同窓会
第 7 号

あの懐かしき頃



七友会会長
佐原 和典

今年、昭和六十二年五月で、我が人文社会科学部は創設十周年を迎えるという。やっと十年が経ったか、という思いとともに、私にとっては、もう懐かしきことであっても、それはまた、昨日のように思っておこせることもある。

一期生の私が、はじめて人文社会科学部の学生として大学生活を迎えたのは昭和五十二年六月四日だったと記憶している。たぶん、天気の良い土曜日だったと思う。五月の中頃に試験をし、下旬には発表があったので、この日の入学だった。六日からオリエンテーションがあって、すぐ授業が始まったように思う。開学が遅れたということで、はじめの一年間は、夏休みや冬休みまで集中講義をして単位

を消化したものであった。カリキュラムにも施設にも不満はたくさんあった。ときには、教務の職員にくっついてかかったこともあった。それでも、ほんとうに楽しかったし、おもしろかった。入学してきた人間が、全国各地からきていたし、もともと希望していた学部が文系から理系、医系と多種にわたっていたのも幸いして、実にゆかいな連中ばかりだった。毎月一回は、教官とコンパを開いていたし、教授が酔うのが楽しみで、また自分も酔っていたものだった。酒席での話から学部のスポーツ大会が生まれたし、大会後に、賞品のビールを持ち寄って、優勝カップで飲む爽快感を味わったのもあの頃だった。みんなが実にいきいきしていて、何か新しいものを創り出すエネルギーを秘めていたように思える。あれから十年、いや、たった十年前のあの頃にある。

十年の間に多くの後輩が入学し、卒業生も千名を越えるようになると、やはり大学の雰囲気も変わってくる。なんといっても、施設

がりっぱになり、整備されてきた。学生は、と言えばまだ若い私が「今の学生は…」というのおこがましいけれども、はっきり言って朝氣がないように思える。ファッションや遊びも流行を追いがちで、肝心の学問に面と向かっている姿が少なくなってしまった。授業に出て単位さえとっていれば、それで済むほど大学の学問は安っぽいものではないはずである。かく言う私も、学問はできなかった。学問のほんの少しをかじった位で卒業してしまっただけに思える。それだからこそ大学で得た何かだけでも、これからの人生に生かしていきたいものだと思っている。

あの頃は、ほんとうに懐かしき思い出の頃であって、誰もが忘れえぬ青春の一コマに違いない。十年後、今度はどんな思いで懐かしむのか、それもまた人生の楽しみであろう。その時はまた、みんなで大いに飲みたいものである。

目次

- あの懐かしき頃……………1
- 人文社会科学部創立十周年を迎えて…2
- 思い出……………3
- 親睦会、盛岡開催について……………4

人文社会科学部

創立十周年を迎えて



岩手大学
人文社会科学部長
高橋 清

同窓会の皆さん、お元気ですか。岩手大学人文社会科学部は、地元の各界各層からの永年の悲願に応えて、昭和五十二年五月に設置されましたが、今年で十周年を迎えることになりました。この間、七回の卒業生を社会に送り出していますが、どうやら卒業生の皆さんへの社会的評価も優れて安定してきております。

もともと、人文社会科学部は、狭い専門分野にとじこもらない総合的・学際的教育研究を行うことを目的に創設された新構想の学部です。このような新しい教育研究目的のもとで勉強した皆さんは、現在、それぞれどのような思いで過しているのでしょうか。

私も、昨年四月、四代目の人文社会科学部長に就任いたしました。十周年を迎える人文社会科学部が、現代社会の要請に応え、新しい学問研究を切りひらくためには、コースや学科目の再編によるいっそうの充実策を検討することが必要と考えております。

国際化・情報化時代に多角的に対応できる

よう、社会文化に対する総合的判断力と専門性をあわせもつ人材を育成することが、人文社会科学部の現代的課題です。「人文社会科学部というところは何を勉強するところなのか分らない」という声を耳にすることがあります。これは、人文社会科学部が従来の専門指向型の学部とは異なった教育研究組織となっているためかと思われれます。

人文社会科学部の新しい教育理念が社会に定着するまでには、まだ少し時間がかかるかもしれません。しかし、皆さんは社会の新しい開拓者として、自信をもって大道を進んで下さい。四季を通じて、日本一美しいともいえる盛岡の地で学生生活を送ったことを、大きな誇りとして下さい。

学部創立十周年

記念式典等について

我が人文社会科学部は、今年五月に学部創立十周年を迎えることになりました。これを記念して、現在記念式典や「概要」発行の準備が進められております。これらの行事は、学部の中に実行委員会を設け、詳細な内容を検討し学部教職員が中心となって進められておりますが、金銭面では同窓会と教育後援会が協力することになっております。

記念式典は、五月二日(土)十時より、岩手大学体育館において、文部省や岩手県をはじめ、県内の教育関係者等を招いて行なわれる予定です。その後、十二時より、ロイヤルホテル盛岡にて祝宴を行なうことになっております。同窓会からは、会長以下の役員や評議員などが出席を予定しておりますが、会員の方でも出席を希望する方がおられましたら、大学の同窓会、あるいは副会長の金澤幸範氏まで御連絡下さい。なお、祝宴の方は会費(未定)をいただくようになるかもしれませんが、御了承下さい。



思 出



岩手大学名誉教授

大畑 莊 一

私が岩手大学人文社会科学部に赴任してきたのは、昭和五十二年の春、つまり新学部が創設された年です。あれから早や十年の歳月が経過しました。私は昨年三月三十一日で定年を迎へ住みなれた岩手大学を去りました。

在職中は多くの方々に数々の御支援をいただき、特に在職二期四年間に亘る学部長時代は格別の御協力をたまわり誠に有難うございました。この機会に紙上を通して心からお礼を申し上げたいと思います。

私事のことを申し上げて恐縮ですが、私は元来、浅学菲才、岩大での最終講義の時にも申し上げた通り、大学の教官になることは念頭になく、昭和二十四年文部教官の辞令をいただくまでは、むしろ夢想だにしていなかったといっても過言ではありません。従って毛筆で書かれた文部省よりの重厚な辞令書を受け取った時は、大変とまどい、苦悩したものでした。あれから三十七有餘年を、宇都宮大学、帯広畜産大学、さらに岩手大学の三大学に勤務し、

岩手大学を最後に退官を迎えるに至った次第です。歳月は過ぎ去ってみれば、一瞬の夢としか感じられません。数々の思い出が、昨日のできごとのように思い浮び、月並みの言葉ですが、まことに懐旧の念に堪えません。

さて、職業には一般に定年があつて、誰でも退職の時期を迎えるようになることは否み得ませんが、しかし考えてみれば定年というのは、いわば恒例的に職業生活の上の節目のことであつて、人間は生きている限り、何であれ為すべきことがなければならず、またそうあるべきであると思ひます。哲学徒として生きてきた私自身に関しても、哲学研究そのものには定年ということはありえないように考えられます。むしろ健康と四囲の環境とが許すならば、今後とも研究を続行し「日暮れて道遠し」の感がしないわけではないが、これまで志して成らなかつたことを今後なしとげたいというのが、私の最近の偽らざる心境であります。

私は岩手大学を昨年三月一杯で定年退官すると同時に、引続き四月一日より第二の人生をスタートし、盛岡大学教授として奉職することになり、そこで相変らず哲学を担当するとともに、前館長高橋八郎（現岩手大学長）先生のを引き継ぎ、盛岡大学図書館長を併任しながら多忙な日々を過しております。ま

た人文社会科学部並びに教育学部には非常勤講師として毎週出講もしておりますので、全く縁が切れたわけでもなく、なつかしい旧友の方々にも接する機会もあります。

私の住居は盛岡市内の昔から由緒ある安倍館町です。家から岩大には徒歩で十五分以内、盛岡大学へも三、四十分程度ですので、健康保持のため車は利用せず、つとめて歩くことにしております。運動不足には充分留意している昨今です。

私立大学は、私がこれ迄勤務していた国立大学とは、大学経営や大学行政その他の面において非常に異なっているので、学内事情や環境に慣れるまでには戸惑う場合も少なくありませんが、しかし極めて楽しく第二の職場で学園生活を続けております。

人文社会科学部は、本年学部創立十周年を迎える年となりますが、本学部の歩み来た足跡を辿るとともに、将来への限りなき発展を祈らずにはおられません。



同窓会親睦会

盛岡開催について

今年の冬は、東京や関西方面で大雪かと思えば、盛岡では二月に十度近くまで上がるといふ近年例のない異常気象ですが、三月の声をきいて、盛岡の雪も重い、大きな春の雪となってきました。大学入試も終え、会員のみなさんは、転勤シーズンで忙がしいかと思いますが、元氣でお暮ごしでしょうか。

さて、先にも述べましたように、今年五月二日(土)に、学部創立十周年記念式典等が行なわれるわけですが、この機会に懐かしい盛岡の地で同窓生の親睦会を開いては、という声が多く寄せられていました。様々検討しました結果、五月三日(日)の午後の開催の方が、より多くの同窓生の参加を得る可能性が大きいということになり、現在、会場確保等の話を進めております。五月の連休にあたり、様々予定をたてるには絶好の機会ですが、できれば、その中に親睦会も加えていただきたいと思えます。卒業以来、盛岡を訪れていない方もたくさんおいでと存じますので、この機会にちょっとした小旅行をしてみたいかがででしょうか。高松の池の桜が満開となつて迎えてくれると思えます。

なお、四月中旬には、会場や時間等詳しい

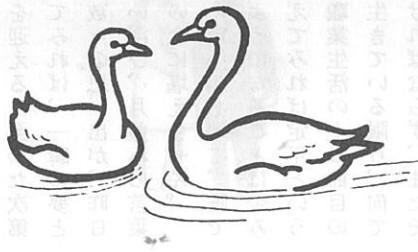
内容をお知らせできると思いますが、参加希望の方や、様々な御意見のある方は、前もって御連絡いただければ幸いです。また、転勤引越等で住所が変わる場合も、早めにお知らせ下さい。同窓会への連絡は以下のところにお願ひいたします。

◎親睦会日程(予定)

昭和六十二年五月三日(日)午後
盛岡市内にて

同窓会への連絡先

- 一、盛岡市上田三丁目18の34
岩手大学人文社会科学部同窓会
- 二、盛岡市仙北一丁目14の20
金澤幸範(副会長宅)



通信、あれこれ

昨年十二月に同窓会名簿を発行して以来、年賀状をはじめ多くの方からお礼や、激励の手紙をいただきました。ありがとございませう。急いで発行したため、自宅の電話や、勤務先が多数欠落してりましたが、現住所がはっきりしてりましたので発行いたしました。名簿は、五年毎に発行を予定しておりますが、会員の方からは、有料でもいいからもう少し早めに出してほしい、という希望もあり今後検討していきたいと思えます。

また、名簿発行時点での住所不明者の他にも、転居先不明で名簿等が返送されてきた会員が何名かありますので、情報をお持ちの方は、同窓会事務局あるいは、同窓会役員までお知らせ下さい。追加・訂正は、できるだけ早くお知らせしていきたいと考えております。学部では、十周年記念行事への動きが活発で、四月には「記念概要」が発行されるようです。今年には、定年退官される教官の方はおられません。今年、国内・外留学のため、盛岡を離れている方が数名おられるようです。髪がちょっと少なくなつた方、まだまだ意気盛んな方とあの懐かしい顔は健全です。盛岡においでの際は、ちょっとお寄り下さい。思い出話を咲かせましょう。(文責 佐原)